

【授業科目】 母子支援看護学特論Ⅱ（小児看護学対象論、保健・福祉）（小児科目） Advanced Child and Mother Health NursingⅡ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
二村 良子	1年次前期	選択	2	30	講義	巻末掲載
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>子どもや母親、家族が抱えている健康課題の系統的・包括的アセスメント方法について学び、子どもや家族の状況を理解し、ケアを実践するためのセルフケア理論、ストレスコーピング理論を理解する。</p> <p>周産期・育児期における母親及び家族が抱えている健康課題の系統的・包括的アセスメント方法について学ぶとともに、愛着理論、母性・父性発達理論を理解し、周産期における親子関係形成支援の方法について探究する。また、母子保健及び福祉の変遷と現状を理解し、今後の課題を学修する。授業は、実務家教員（二村）が進める。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/課題は授業で発表またはレポート提出とし、その都度フィードバックを行う。</p>					
授業の位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー①、③の達成に寄与している。					
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ol style="list-style-type: none"> 子どもや母親・家族が抱えている健康課題の系統的・包括的アセスメント方法について説明できる。 ハイリスク新生児と母親・家族が抱えている健康課題の系統的・包括的にアセスメント方法について説明できる。 小児看護における諸理論を踏まえた子どもと家族の支援方法を考えることができる。 母子保健・福祉の変遷と現状を理解し、課題を明確にできる。 					
時間外学習に必要な内容・時間	<p>配布資料や講義で紹介した参考文献は通読し、予習・復習をして授業内容の理解を深め、積極的に意見交換を行えるようにする。(各2時間)</p> <p>課題に関連した文献の検索を行い、プレゼンテーションやレポート作成にいかす。(各2時間)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1～4. 子どもや家族に対するアセスメント: 子どもや家族が抱える健康課題とヘルスアセスメント方法 5. ハイリスク新生児と母親、家族に対するアセスメント (1): ハイリスク新生児の特徴と成長・発達上の課題 6. ハイリスク新生児と母親、家族に対するアセスメント (2): ハイリスク新生児と母親、家族が抱える健康課題とアセスメント方法 7～8. セルフケア理論と母子支援: オレムのセルフケア理論と母子支援への適用 9～10. ストレスコーピング理論と母子支援: ラザルスのストレスコーピング理論と母子支援への適用 11～12. 愛着理論と親子関係形成: ボウルビーの愛着理論と親子関係形成 13. 母性・父性発達理論と親役割獲得: 母性・父性発達理論 大日向雅美「母性の発達」、柏木恵子「父性の発達心理学」 14～15. 母子保健及び福祉の変遷と現状及び課題 					全て 二村
評価方法 評価基準	授業参加態度、プレゼンテーション、レポートなどを合わせて総合的に評価する。					
教科書	教科書なし		参考書等	講義の中で適宜紹介する		